

「受講者の声」 ミュンヘン・ドイツ語夏期集中講座 2025年8月開催

ミュンヘン大学付属語学学校（Deutschkurse bei der Universität München）で開催された1か月の夏期集中講座を受講した商学部生の報告からその一部をご紹介します。次年度の受講を検討する際に、ぜひ参考にしてください。この夏期講習の特徴は、自分のドイツ語レベルにあったクラスに配属され、そこで同レベルの世界の学生と一緒に学ぶことです。※授業の各レベルについては、最後のページをご覧ください。

商学部生のみなさんのご参加をお待ちしています。

（担当教員）

想像以上の収穫が得られた留学

初めに授業について触れていきたいと思っています。私が受講したクラスはA2で独検3級相当だと耳にしていました。そのため授業自体にはあまり苦戦しないだろうと考えていました。しかし、実際は甘くありませんでした。初めに驚いたことは受講生のほとんどがドイツ語で質問をしたり、会話をしたりしている姿でした。ドイツ語を話せない、聞き取れない自分からしたらこの時点でレベルの差を痛感しました。授業内容自体は文法事項ですでに習ったことがあるものでしたが、授業もドイツ語でガンガン進むため、初めの1週間はドイツ語に慣れることに心血を注いでいました。また私のクラスではペアワークが頻繁に実施されていました。ドイツ語のできない私はたじたじになりながら英語を混ぜることで乗り切っていましたが、ある程度英語もできた方が留学全体を通して楽だろうなと感じました。

しかしこの授業も苦しいことばかりではありませんでした。なぜなら教室全体が明るく前向きな雰囲気を持っていたことです。このおかげで私は間違えても積極的にチャ

レンジできていたし、質問もすることができていました。英語やドイツ語ができない中でも積極的に挑戦できていたことは自信となり、この留学の大きな収穫になった感じています。

次に授業以外の滞在生活について話そうと思います。授業は午前中に終わるため、午後は基本的にフリーな時間でした。私はミュンヘン市内を観光するなどに時間を使っていました。調べてみるとミュンヘンにはたくさんの観光地や美術館、博物館があり、毎日どこかしらへ足を運ぶことが可能です。あらかじめ日本を出発する前に、ドイツ公共交通機関の乗り放題チケットを買っていたので、休日にはミュンヘン市内から離れて遠出もすることができました。ミュンヘンの文化や芸術以外にも南ドイツの自然にも触れることができたので、アクティブに活動することがおすすめです。

寮では3人1部屋が割り当てられ、共同生活を行いました。部屋には最低限の設備しかありませんでしたが、不便さをさほど感じず生活を送れました。唯一ドライヤーがなかったことが痛手でした。共同のキッチンには冷蔵庫、電子レンジ、トースター、炊飯器、IHヒーターのコンロがあり、だ

いたいの料理はできるようになっていました。調味料などはなかったので現地のスーパーで調達しながら料理をする必要がありました。

ともかく 1 か月の滞在で想像以上の収穫が得られました。誰にとってもこの留学は有意義な経験になると思います。

(商学部 2 年・男性 A2 クラスに参加)

人生の財産になる貴重な経験

私は A2 のクラスを受講しました。全てドイツ語で授業が行われましたが特段難しいわけではなく、明治で一度習った基礎がベースであり、同じようなレベルの方々が集まるため安心して臨むことができたと思います。教授が 1 人 1 人指名して授業が行われたため、ある程度緊張感はありましたがその分気が緩むことなく、集中して授業を受けることができました。ペアワークも片言ではありましたがお互いの知識を共有し合うことで自然とボキャブラリーが身に付きました。多様な国籍の方が集まっていることに加え、年齢層も分散しており、普段と違う環境でドイツ語が学べたことはとても刺激的でした。国を問わず、それぞれの理由でドイツ語を学ぶ人々の姿を見て、ドイツ語の需要を感じながら学習意欲へのモチベーションが上がるきっかけにもなりました。テストは週に 2 回ランダムで前日に予告され、放課後もしっかりテスト対策をしなければ得点は取れない形でした。しかし、毎日膨大な課題が出されるので放課後に授業内容を復習する習慣は身につきました。課題はチェックされるわけではないので義務的ではなくどちらかといえば向上

心ゆえに意欲的に取り組むことができました。日本語の教科書を使うよりも豊富な言い回しの伝授に加え、問いも答えも全てドイツ語で学ぶほうが、理解が深まるというのを実感したため、なんとなく理解していた知識が鮮明に上書きされる感覚はとても気持ちよかったです。最初は分からない意味でも毎日の授業を通して、意味が分かってくるのも面白かったと思います。

このプログラムは人生の財産といっても過言ではないくらい、毎日が充実していて本当に貴重な経験になりました。ドイツ語が現地で学べることもそうですが、何よりもクラスや寮での異なる国の方々との交流が忘れられない思い出になりました。夜ご飯や放課後を一緒に過ごすことで仲を深めることができ、全員が慣れない生活である部分も協力し合えて、絆が深まったと思います。日本では決してできない経験でとても有難かったです。また、現地の方に自分のドイツ語が伝わっていると実感する瞬間が多々あり、とても嬉しかったです。せっかくドイツに行くのであれば自信がなくても英語よりも積極的にドイツ語を使うことをお勧めします。

授業に何度か穴を開ける生徒が多かったのですが、1 回で学べる内容量が多いため、1 度休むだけでも後悔すると思うのでやむを得ない事情がない限りは全日出席した方がいいと思います。観光は週末も、放課後もあるので十分だと思います。1 か月間ですがとても濃く貴重な経験になるので、ぜひ楽しんで来てください。

(商学部 2 年・女性 A2 クラスに参加)



この留学で学び、感じたこと

私は今回の留学で、多くのことを経験し、学ぶことができたと思います。

1 点目は、ドイツの文化や自然、そして人々とののかかわりです。私は今回の留学で初めてドイツに行ったのですが、まずドイツの街並みの美しさに驚きました。今回の留学先は、ミュンヘンがメインで、中心地であるマリエンプラッツの市庁舎をはじめとてもきれいな街並みとそこら中に点在している教会にとてもテンションが上がりました。また、少し別の都市に行くと、街の雰囲気が全く異なっており、街ごとのの比較をするのも面白かったです。また、ドイツは自然にあふれており、ミュンヘンにもイングリッシュガルテンという巨大な自然公園があり、様々な鳥類がおり、鳥が好きな私にとっては天国のようでした。次にドイツの人々とののかかわりですが、ドイツでは、ドイツ語はもちろん英語が通じるため現地の人と会話をするのに大きな支障はなかったです。ただ、頑張ってドイツ語で話そうという努力はしました。さらに、私のクラスの先生を含め、気さくに話しかけてくれてとても接しやすくいい人が多かったです。特に感じたのは他人に対しての思いやりや気遣いをしっかり声に出して伝えて

いる点が印象的でした。

2 点目は、私たちのように留学に来ている人たちとののかかわりです。私たちの寮は、アジアの人が多く、台湾や韓国の人もおり、彼らと関わる機会が多かったです。特にキッチンが共用なのもあり、毎日顔を合わせて交流するので自ずと仲良くなり、最後の週には一緒にイングリッシュガルテンでピクニックをしたり、韓国料理を一緒に作ったり、とても楽しい時間でした。主に彼らとは英語で会話をしたのですが、自分の英語の語彙力のなさをとても痛感し、彼らと もっと深いコミュニケーションを取りたいと思いました。さらに驚くことに日本語を話せる韓国の人 がいて、彼らの言語取得への情熱に感嘆するとともに、自分の努力量の少なさをとても痛感しました。それ以外にも、クラスメートはベネズエラやキルギス出身の人もおり、会話が弾んで楽しかったです。

今回の留学で、外国の人はもちろん多くの日本人の友達もできました。例えば東京の大学院で哲学について勉強していてドイツ哲学に興味があるから留学に来たり、日本に住む外国の子供への日本語教育について学んでいて言語を多角的な視点から見ようとしている人がいたり、自分がただ漫然と大学生活をしていたら出会うことのないような、自分のやりたいことや目的をしっかりと学んでいる人たちに会い、自分のこれからの大学生活はもちろん、これからどのように生きていきたいかももう一度考え直すタイミングになりました。更に、偶然私の高校の後輩で、現在他大学の1年生が同じ短期留学に参加していました。彼は、B2 と私よりも 2 段階も上のクラスを

受けており、尊敬の念と同時に悔しさも感じました。このようにこの留学では、ここでは書ききれないほど多くの友達ができ、彼らとしっかり英語やドイツ語で流ちょうにコミュニケーションを取れるようになりたいと心の底から思うようになりました。

3 点目は、日常の生活とドイツ語についてです。私たちの寮はご飯がついていないため、自炊か外食の選択肢しかありませんでした。しかし、外食にすると安くても 15 ユーロ(1,900 円程度)かかってしまうため主に自炊をしていました。私たちの部屋は日本人が 3 人だったため、協力してパスタとサラダを作って夜ご飯を食べていました。自炊だと 1 人 3 ユーロ程度に抑えることができとても良かったです。朝は大きなシリアルと牛乳を買い、食べていました。個人的に持ってきたインスタント味噌汁も入れて、だいぶ健康的な生活をできたほうだと思います。ただ、留学中のため、週に何回かは外食でバイエルン料理やケバブを食べていました。特にケバブは 10 ユーロを超えず、野菜もいっぱい入っているため、何度も食べました。

日常生活では、水の持ち運びと買いだめが大変でした。ドイツの水道水は一応飲めるけどお勧めしないということで 2 リットルのペットボトルをまとめ買いしていました。日曜日はスーパーがやっていないため食材や水の買いだめが必須だと感じました。また、交通に関しては U-Bahn と S-Bahn に路面電車とバスが主な交通手段でしたが、とても便利で移動がしやすかったです。特にミュンヘンは自転車専用道路が多く、歩行中に自転車が来た時にどっちによけるか考えるストレスがなく、とても快適でした。

また、気候ですが朝夜は寒く、昼は暑かったです。朝は 15~20℃で昼は 30℃近くまで上昇し、温度調節が難しいですが、湿気が少ないため、不快感が少なく、とても過ごしやすかったです。ドイツのビアガーデンなどはこのような気候があるからこそ生まれたのだと感じました。ミュンヘンには生活以外に多くの博物館や美術館や娯楽施設がありました。その中で特に思い出に残っているのはサッカーです。FC バイエレンミュンヘン対 RB ライプツィヒの開幕戦を友達と見に行きましたが、熱気であふれており、迫力満点でした。また、学校の行うツアーで先日世界遺産になったノイシュヴァンシュタイン城に行き、豪華絢爛さに言葉が出なかったです。また、バイエルン州にあるダッハウでは、強制収容所の跡地があり、当時の傷跡やこのような惨劇があった事実に向き合う時間を作り、国際平和、人道支援など今の社会が抱える課題についても考える機会になりました。



ドイツ語のクラスですが、文法の内容は普段のクラスで学んでいる内容だったのですが、説明が全部ドイツ語だったため、毎授業頭をフル回転させて受けていました。特に、リスニングやリーディングが弱いのを見つけたのでそこを補えるよう勉強していきたいです。宿題や予習に関しては毎日 2 時間半程度行っていました。予習をする

ことで授業にしっかりついていけるようになったのでとても大事だと感じました。また電子辞書があるとわからない単語をすぐ調べることができるため、持っていくことをお勧めします。さらに、会話練習などで使えそうな単語を軽く覚えるのもとても効果的だと思いました。

以上が、私がこの留学で学び、感じたことです。大学生の夏休みの1か月を使うため長いと感じるかもしれませんが本当にすぐに1か月が終わりました。それぐらい刺激的で楽しい経験をできると思います。自分たちで海外に行き、ほかの学生と共同生活をして、なおかつその国を深くまで知ることのできる機会はこの先いつできるかわからないし、だからこそ一生忘れられない経験をこの留学ですることができると思います。もちろん留学に行っても引きこもって日本人同士でしか話さなかったり、授業をさぼったりすれば元も子もないですが、この留学はいろんな人たちと話すための一歩を踏み出す良い機会だと思います。今でも寮の近くの河原で飲んだビールと夕焼けに照らされた教会を忘れられません。ぜひ悩んでいる人はこのミュンヘン大学付属語学学校の研修を受けてみてくださいね。

(商学部2年・男性 A2クラスに参加)

■クラスレベルの目安は、A1 が初歩、A1.2～A2 が初級、B1/B2 が中級、C1/C2 が上級です。授業はドイツ語のみで実施されます。

(以上)